

## 子ども生活学部の教育方針・目的

### (1) 子ども生活学の教育方針

ひとりひとりの「子ども」は、それぞれに個性をもって誕生したかけがえない存在である。子どもはひとりでは生存することはできず、大人に保護され、食物を与えられ、着せられ、休む場所を与えられ、愛情を受け、話しかけられ、自から活動をしながらか人間としての成長をしていく。乳幼児期は生涯にわたる人間の発達の基礎を築くとりわけ重要な時期であるので、発達の基礎となる乳幼児期に焦点を当て、児童期から青年期までを視野に入れた存在を広く子どもとして考える。「生活」とは人間が生存し、活動し、暮らしていく営みであり、子どももまた生きて生活をしている主体である。子ども生活学は、「子どもの生活」という視点から、生活のなかで日々周囲のものや人とかかわりながら自ら学び、発達をする子どもを、生活の主体としてとらえ、子どもにとって最善の生活が展開されるよう子どもと人との環境の関係について研究と教育を行うものである。

「子ども生活学」は、日本という文化の中に生まれ、現代という歴史的な時点におかれている現在の子どもの生活を、親、家庭、地域、現代社会の視点から総合的にとらえ、子どもにふさわしい生活に必要な課題を明らかにし、課題を解決していくための実践的、応用的な学問である。子ども生活学は、子どもの視点に立ち、子どもの基本的な権利が守られ、子どもにふさわしい生活環境が実現するための研究を行う。保育学、発達心理学、教育学、社会福祉学、家族社会学、地域社会学、保健学、臨床学、文化芸術学、環境学、家政学などの学問分野を基本において、子どもの生活をとりまく具体的な現状や課題について、学際的、総合的に追及し、子どものための適切な家庭環境や保育・教育環境や地域環境を形成する実践的な学問である。

### (2) 子ども生活学部子ども生活学科の目的

「子ども生活学部、子ども生活学科」では、子どもを、社会的な存在としてとらえるとともに、自ら興味・関心を持ち、自らの生活を作り出す主体として、また学びの主体として、理解することを基本的な視座として持つ。あくまで子どもの視点に立ち、子どもが本来持っている育つ力、学ぶ力を引き出し、方向づけ、生涯にわたる豊かな発達を主体的に作り出せるよう、土台づくりをするための研究と人材の養成を行うことを目的とする。

今日、少子化の進展するわが国では「生活の主体としての子ども」の存在は、ある意味で危機的な状況にあるとさえいえる。親による子どもの虐待や死亡事件が次々と報じられ、子どもが犯罪や事件の被害者となることが多いことは衝撃的な事態と言わねばならない。

子ども生活学部子ども生活学科では、すべての子どもが生活する主体者として守られ、子どもが育つ家庭、地域社会が一人ひとりの子どもにとって最善の利益が守られる生活環境となるよう、問題を明らかにし、課題の解決に必要な研究と教育を行い社会に貢献することをめざすものである。

今日、「**学びの主体としての子ども**」もまた多くの課題を持っている。子どもが育つ家庭は、小規模化し父親の不在や母親の孤立など、その構造・機能が大きく変化し子育てや家庭教育の機能が著しく低下している。親族や地域社会の人間関係は希薄化し、子どもは多くの人びとのかかわりの中で育つという環境がなくなった。また経済社会の発展と共に地域の自然環境が失われ、人工的な環境と商品の氾濫は、子どもが自発的、主体的に環境とかかわる機会を少なくしている。

子ども生活学部子ども生活学科では、すべての子どもが、人、もの、自然を含む環境に対して興味と関心を持って働きかけ、様々な経験をしながら学ぶことができるよう、環境を教育的に整え、子どもの生涯にわたる豊かな発達の土台が形成されるよう、子どもを支援できる人を育てる教育と研究を行うことをめざすものである。

今日の日本では、子どもを生活の主体としてまた学びの主体として育み、子どもの育つ力を十分に引き出すための意図的、教育的な働きかけがますます必要となっている。子どもにとっては発達の早い時期から、集団の場で保育の専門家や友達との関係のなかで遊び、学ぶことが必要であり、保育所、幼稚園、認定こども園など子どものための施設の役割は今日、ますます大きくなっていると見える。

幼稚園や保育園などの集団の場で子どもとかかわる保育者は、保育についての広い知識を持ち、子どもを理解し、子どもとの温かな関係を作ることができる能力と技能を高めることが、一層必要とされている。とりわけ家庭や地域社会での子どもの養育と教育が適切に行われるよう、子どもの**家庭や地域社会と連携し、子どもの心身の健やかな発達を促す環境を創造することのできる人材の育成が、今、まさに求められている。**

### **(3) 子ども生活学部子ども生活学科の卒業時の到達目標**

子ども生活学部子ども生活学科における卒業時の到達目標は以下のとおりである。

- (1) 子どもと共に生活を創る人として、子どもの生活の安全に配慮し、豊かな生活・保育環境をつくることのできる力をつける。
- (2) 幼児教育者・保育者など子どもの成長・発達にかかわる専門職としての資質・能力を磨き、自信をもって子どもとかかわる力をつける。豊かな保育活動等を通して、子どもが主体となる生活や社会を創り出す

力を身につける。

- (3) 子どもや保護者や同僚とのコミュニケーション力，積極的に対人援助をする意欲と能力，および地域における世代間交流活動の支援が出来る専門性を身につける。
- (4) 子どもに関連する得意な分野の専門性を深め（リトミック，レクリエーション，キャンプ，児童厚生員など），現場に出て特色のある指導のできる力を身につける。
- (5) 理論を応用する実践力や，実践を振り返り洞察する力を身につける。

既定の必要な単位を取得することにより，卒業時に，次の資格取得が可能となる。

- ア 幼稚園教諭一種免許状
- イ 保育士資格
- ウ リトミック指導者1級，2級資格（民間資格）
- エ レクリエーション・インストラクター資格（民間資格）
- オ キャンプ・インストラクター資格（民間資格）
- カ 児童厚生員資格（民間資格）